

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500233		
法人名	医療法人 北陽会		
事業所名	グループホーム ふくふくのさと さぼてんユニット		
所在地	愛知県春日井市西尾町前新田341番地		
自己評価作成日	2025年2月28日	評価結果市町村受理日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2392500233-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和7年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念をみんなで考えて作り直しました。医療法人として主治医・訪問看護との24時間の連携体制を整備し、日常健康管理、月2回の往診を行い、医療との連携を大切にしています。入居者様の自立支援に力を入れていて、残存機能の維持に努めています。コロナウイルスの感染拡大に伴い、残念ながら毎月地域ボランティアの方の訪問は中止継続、レクリエーション、季節の行事、外出レク、誕生日会・毎週日曜日の食事会などの充実を図っています。利用者様一人ひとりの理解を深める為、カンファレンスでは職員に、利用者様に関する新たな情報、小さな気づきがないかなどを聞き入れて、介護計画に活かしています。入居者様の身体的・肉体的面の両方の安定の為に下剤服用を極力控える取り組みを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が長期化していることで、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、感染症等の状況をみながら、徐々に外部の方との交流を再開しており、利用者と家族との交流の機会にもつながっている。外部の方との交流については、運営法人の関連事業所でもある特養と隣接していることで、特養との交流も徐々に再開している段階でもある。ホームの日常生活の中で、職員間でレクリエーションの取り組みを行う等、利用者の生活が単調にならないような支援も行われている。利用者の外出についても、困難な状況が続いているが、ホームの両ユニットが平面でつながっている利点も活かしながら、日常的に歩行訓練にもつながる機会をつくり、利用者の身体機能の低下を防止にもつなげている。また、運営母体が医療機関であることで、医療面での柔軟な支援体制がつけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所や職員の見える所に理念を掲示して、申し送り時に参加者で復唱して、介護現場に反映させるように実践している。	ホームの基本理念がつくられており、職員による支援の基本と考えている。理念については、内容の見直しを行っているが、職員間で検討した結果、今までの理念を継続することとしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の住民の方々が来たりと交流を徐々に深めている。	地域の方との交流については、制限の緩和を行っており、地域のコンビニ等に出かける機会をつくる等、徐々に交流の機会をつくっている段階でもある。当ホームに隣接して関連の特養があり、特養を通じた地域の方との交流も行われている。	地域の方との交流については、徐々に交流を深めており、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の防災行事の場所を提供して交流を図るように予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	委員会での会議で報告を通し説明している。リモート面会等を通じてご家族様の要望を聞き実践している。	会議については、対面方式での会議で行われており、関連の特養とも連携しながら開催している。会議の際には、関連事業所の職員も参加する等、事業所間での交流の機会にもつづけている。	会議の出席者が限られた範囲の方になっていることもあるため、ホームからの継続的な働きかけにも期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談事項が有る時は市役所の担当者に相談・確認を行ってサービス向上に取り組む様になっている。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等に機会をつくり、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、生活保護の方を通じた関係部署との情報交換や市の介護相談員との情報交換等の機会もつづられている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	防犯上・離設事故防止・安全の為に玄関を施錠しているが、希望時には自由に出入りを行っている。離設の心配のある方は、職員や家族の方と出入りを行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内を利用者が自由に移動ができるように職員間で連携した利用者の見守りが行われている。身体拘束に関する委員会や職員研修などの取り組みも行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について、犯罪であるとの認識を徹底している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	春日井市認知症地域連帯の会などの勉強会、施設内勉強会など、職員が積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所説明時は重要事項説明書で十分な説明をし、質問があれば受け付け納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様より不満・要望を聞き、日々の生活の訴えや行動を読み取るようにしている。家族様には、面会時に意見を聞き、事業所内での苦情窓口・意見箱を設置し運営に反映させている。	家族との交流については、徐々に制限の緩和が行われており、居室への入室も可能になっている。利用者や家族からの要望等については、管理者でもある施設長が対応している。また、利用者毎の便りの作成の他にも、メールを通じた情報交換も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にリーダー会議を開いている。面談等で職員から直接聴いたり、意見箱を設置して相談にのる仕組みをとっている。	毎月の職員会議の他にも、日常的な申し送りの時間を通じた意見交換も行われており、職員からの意見等を施設長(管理者)を通じて反映する取り組みが行われている。また、施設長による随時の職員面談を行い、職員一人ひとりの把握も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務評価を行っている。 向上心をもって働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験ある職員が指導員として、知識・技能を伝える。外部の研修に順次参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県グループホーム協会に加盟して意見や情報を交換するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の不安・要望等には面談や見学のおりに確認し、事前に把握して生活歴や生活などアセスメントにて全員が確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望や不安や困っている事等、ホームでどこまで対応や支援していけるか、入居前に把握したり、入居後は間もなくは、ご家族様と連携を密にして支援につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	支援に関しては、可能な限り対応しようとは思いますが、随時相談し納得できるように話し合いに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様一人ひとりの想いや個性を尊重して、個々に違いが有る為、できない事を支援しながら一緒に共同生活に参加している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの行事に参加して頂き、病院受診、衣服の衣替えなどご家族様も入居者様を支える一員である役割をお願いしている。日々のご様子など、リモート面会・面会時、お便り、お電話にてお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染状況をみながら、知人、友人等、馴染みの方が来所された場合など明るく出迎えたり、一緒に出かけられたり、また再度ご来所いただけるような雰囲気作りに努めている。	外部の方との交流については、現状、限られた範囲となっているが、制限の緩和が行われていることもあり、交流に機会もつなげている。また、家族との外出についても、徐々に制限の緩和が行われている段階でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は一人ひとりの個性や生活をつかんで得意分野を考慮しながら支え合えるように教育し、見守り支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等、契約終了においても、ご家族にその後の様子を確認している。その後他施設に移られたことなどもご家族様よりご連絡を頂いているし、こちらからも連絡するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の関わりの中で個々のご要望を把握して取り入れている。。困難な場合はご家族様より情報を頂くようにしている。	職員間で利用者に関する意向等の把握を行い、職員全員が情報を共有できるように、独自の申し送り記録を残す工夫が行われている。また、カンファレンスも行われており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所に至るまでの経緯、生活歴をご本人様、ご家族様より入所時に聞き取り、アセスメントを作成した物を書類にして職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活のリズムを把握し、介護計画書・生活記録で把握できている。毎日3回のバイタル測定、月1度以上の体重測定、週一回の往診実施、毎日の体調観察や心身状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	リーダー会議・カンファレンスで介護計画について意見交換、方向性対応で問題が無い、気づいた事を介護計画に活かし、入居者様家族に不安感がない介護計画に反映するように努めている。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的な申し送りを通じた情報交換を行いながら変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活で起床から就寝、夜間の状態を対応者による記録、申し送りや連絡ノート等で情報を共有し、問題点があれば介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	生活の中でご家族様・関連施設等と協力し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行事の際、地域ボランティアの方に来て頂く事や、消防訓練に参加していただくこともあり、災害時は近隣の方をお願いするように検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	緊急時以外は、それぞれのかかりつけ医に診ていただいている。また、利用者様の希望する医療機関に受診できるように対応している。	運営母体が医療機関でもあることで、医療面での定期的及び随時の連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。また、母体の医療機関の看護師との連携も行われており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常健康管理として月2回訪問看護をうけている。母体医療機関と24時間連絡できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報との関係もあり、病院側より個人情報はご家族様に伝わり、ご家族様より状況や退院について相談を受ける。常に病院に出向き、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合でも、本人ご家族様の希望を聞き、医療関係者との連携を密にしながら対応している。	身体状態が重い方も生活を継続できるように支援が行われているが、現状は、医療機関や特養等へ移行しており、看取り支援は行われていない。利用者の段階に合わせて、特養等への案内を行う等、その方に合わせた支援内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルを作成しているが、現状は母体医療機関主治医の指示にて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年3回の避難訓練を実施している。日常的に消火器の設置場所の確認、就寝前の火の元確認をチェックシート表にて徹底している。	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。ホームの立地場所が高台にあり、水害のリスクがない環境でもある。また、当ホームに隣接して特養があるので、事業所間で連携した地域の方との関係につなげている。	外部の方との交流が困難な状況が続いていたこともあるため、地域の方との協力関係について、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人のプライバシーに配慮したケアに努めている。お客様として、人生の先輩として、一人の人間としての尊敬の念を持ち、言葉遣いに気をつけるように教育している。	ホームの理念として掲げている4つの「そん」には、忖度する「そん」も掲げられてあり、職員による利用者への対応にもつなげている。日常的にも施設長から職員の言葉遣いや話し声の音量等、職員に注意を行う機会をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に声かけで本人の意思で決められるように取り組んでいる。入居者様の出来ない部分をカバーしたり、できる事を引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、入浴などある程度は決まっているが、柔軟に対応している。一人ひとりの生活リズム、体調に合わせた配慮や支援をしている。希望者には、入浴を週3回も取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみは本人の好みに合わせたり、希望される方には、マニキュアしたり、ご家族様に聞いたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々に出来る・好きな作業を職員と一緒にやっている。食事準備は入居者様の出来る事を一緒にやり、同じように過ごせるように努めている。年に1回、アンケートを実施している。	食事については、外部業者も活用しながら提供が行われており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。おかず類の盛り付け等の工夫を行う等、利用者に食事を楽しんでもらう取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の献立はバランス良く偏りのないよう配慮し、利用者様の好みを聞く事もある。水分補給は10時・15時・食事時・入浴後には必ず実施。随時水分を摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員が個人に合わせた介助を行って、口腔内の清潔保持に努めている。毎週、2回訪問歯科にも入って頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々に排泄管理を行っている。出来る限りトイレで排泄できるように排泄パターンを把握して、誘導・声掛けを行い、一人ひとりに合った介助を行っている。	排泄に関する記録については、電子記録の他にも排泄表にも記載しており、日常的に職員間で情報を共有する取り組みが行われている。トイレでの排泄を基本に支援が行われており、医師、看護師と連携した排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便を基本として、食事・水分・運動等考慮し、各人にあった排泄の様子を掴み、飲み物・水分の量や下剤の量などを調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日と順番は可能な限りご本人様の希望を取り入れながら週に3回の入浴を実施している。	入浴については、利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われているが、利用者の状況に合わせた随時の対応も行われている。入浴を拒む方にも声かけを行い、定期的な入浴につなげている。また、季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室での休息はいつでもして頂ける様、各部屋にエアコンを設置している。入居者様一人ひとりの生活のリズムにあわせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤の理解と体調変化の確認について職員に徹底している。処方箋を個々のファイルに綴じて、用法、作用、容量など解るようにしている。定期的に薬剤師の方から研修を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様一人ひとりがどんな事に興味や得意があるか把握し、役割分担をして本人の出番や個々のレベルに合わせ、塗り絵、歌、計算、パズル、散歩・外出等を行い気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には、職員とお散歩したり、ドライブにも出かけている。	利用者の外出については、徐々に制限の緩和が行われていることもあり、近隣のコンビニに出かける等の機会をつくっている。また、季節等にも合わせた外出行事も行われており、花見に出かける機会がつけられている。	利用者の外出が限られた範囲となっていることもあるため、今後の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方については所持してもらっているが、当ホームとしては使用の機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも応じる事ができるようにしているし、リモート面会も含めて現実実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関ホールには入居者様全員で作った季節感ある絵や作品を貼って、明るい雰囲気をつくっている。	ホームの両ユニットをつなぐ通路が長いことで、外出が困難な時期も歩行訓練を行う等、利用者の身体機能の維持につなげる機会をつくっている。玄関ホールを中心に利用者の作品や写真の掲示を行う等、利用者の暮らしぶりを伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを設置し、仲の良い方同士でくつろげるように配慮している。食堂リビングでテレビを見たり雑談できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には出来る限り使い慣れた物を持ってきていただき、生活環境を変えない様にしている。位牌などを持ってきている方もいる。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類やテレビ等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。居室にクローゼットの設置が行われていることで、車いすで生活している方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様の自立の支援が出来るよう生活空間の安全な環境づくりに取り組んでいる。居室のタンス等、利用者様が分るように表示をしている。		